



令和2年度「輝けやまがた若者大賞」受賞者一覧（地域順、敬称略）


【団体】

受賞団体（所在地）	代表者	会員	活動期間
山形を熱くしよう！ プロジェクト（天童市）	代表 kiyō <small>つちだきよたか</small> （土田清隆）	18名	平成24年9月～
活動の様子	活動の目的・きっかけ		
	<p>代表が東京からUターンしてきた際に、山形には10～20代の若い世代の活躍の場が少ない、アーティストの発表の場がないと感じた。山形で若者が活躍する場を自分たちでつくり、その活動を人の役に立つようにできないかと思ったことがきっかけ。山形を若者が活躍できる場所にしよう、地域をもっと盛り上げようとする代表の考えに賛同する有志数人で活動が始まった。</p>		
活動概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災復興支援チャリティーイベントを5年間自主企画。アーティストライブやハンドメイド作家のマルシェ、子ども向けイベント等を実施。寄せられた善意は米沢市の保育園や気仙沼の障がいを持つ子の親のチーム等に寄付。</li> <li>・浴衣コン、BBQコン等の婚活イベントを、さがえ・ふるさと企業体と共催で全10回程度開催。</li> <li>・子育て支援施設や介護施設において、「ありがとうツアー！」と題し、無料コンサートを実施。</li> <li>・令和元年度は、全3回の春恋マルシェを自主企画（第3回はコロナで中止）。県内外のハンドメイド作家、農場、知的障害者の施設等、延べ80の幅広い個人・企業が出展し、毎回800名超が来場。</li> <li>・様々なイベントを開催することで、若者の活躍の場と出会いと交流の場を創出し、交流人口の拡大につながっている。</li> </ul>			

受賞団体（所在地）	代表者	会員	活動期間
ゆきぐにたかのすたいこほぞんかい 雪国鷹巣太鼓保存会（大石田町）	代表 <small>のべきわ けんじ</small> 延澤 健治	6名	平成25年3月～
活動の様子	活動の目的・きっかけ		
	<p>平成24年に「天童よしみと大石田町の小学校ふれあいコンサート」で子どもたちが「雪国鷹巣太鼓」を披露。雪国鷹巣太鼓は、コンサートを企画していただいた、作曲家若草恵さんの父・齋藤久さん（大石田町鷹巣出身）が地元鷹巣に残してくれた曲。しかしコンサートで披露された曲はアレンジが加えられており全く違う曲になっていた。コンサートを聞いた鷹巣地区の住民より「原曲を守ってほしい」との声があがり、「雪国鷹巣太鼓保存会」を立ち上げた。</p>		
活動概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最上地域を中心に各イベントで和太鼓を披露。</li> <li>・子どもたちが主体となる和太鼓クラブを立ち上げ、伝統芸能の継承及び和太鼓の楽しさを子どもたちに伝えている。クラブ設立時は4人だったメンバーも、現在8人に増えており、地域に根差した団体にしていきたいと考えている。</li> <li>・「モッシュ大石田」や「日本一のさくらんぼ祭り」に出演（大石田町の芸術文化団体としては初）。</li> <li>・新型コロナウイルスの影響で延期となったオリンピックの聖火リレーでの出演依頼もあった。</li> <li>・地元根づく団体として様々なイベントに参加することで地域の元気を創出しているほか、子どもたちに伝統芸能を学ぶ機会を設け郷土愛の醸成につながっている。</li> </ul>			

受賞団体（所在地）	代表者	会員	活動期間
<small>きっきん だんす ふあむ</small> Kickin' Dance Fam（鶴岡市）	代表 <small>きくち まさあき</small> 菊地 将晃	21名	平成22年8月～
活動の様子		活動の目的・きっかけ	
		<p>鶴岡市内で活動していたストリートダンスグループにダウン症の男性を受け入れたことがきっかけ。健常者、知的障がい者、ダウン症者（児）などの多様なメンバーが共に活動することで、障がいの有無に関わらず、共に楽しみ、自己表現する場をつくり続けることを目的としている。</p>	
活動概要			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいの有無などに関係なくメンバーを募り、定期的なダンス練習と市民参加型のコミュニケーションワーク、イベントでのダンスパフォーマンスとダンスを通じた仲間づくりを行う。</li> <li>・昨年度は鶴岡天神祭やさくらんぼ祭り、山形大学農場フェスティバルなどの地域のお祭りやイベントでダンスパフォーマンスを行ったほか、ダンスと福祉をつなぐ「ゲキワルナイト（横浜市）」に参加。全国放送のテレビ番組でも紹介された。</li> <li>・「Bするコミュニケーションワークショップ」は団体メンバーがホストファミリーとなり、月1回程度実施。ダンスだけでなく、触れ合ったり目を合わせたりなどの言葉でないコミュニケーションをとりながら、ただその場にいる、どんな自分でもOKな時間を共有するというワークショップ。メンバー以外の多くの参加者とも関わりを持つ貴重な機会にもなっている。</li> <li>・障がいの有無に関係なく誰もが自由に自己表現する場をつくるほか、地域住民との交流機会も設けることで、個性や多様性を認め合う優しい地域社会づくり（ノーマライゼーション）に貢献している。</li> </ul>			

### 【個人】

受賞者（居住地）	活動期間
<small>そりまちたかひろ まい</small> 反町貴浩・舞夫妻 （村山市）	【貴浩氏】平成25年4月～ 【舞氏】平成22年9月～
活動の様子	活動の目的・きっかけ
	<p>○貴浩氏：「日本初草大学・樽石大学」に入塾、松田清男学長から地域づくりの基礎を学び、その縁で樽石地区に移住。後継者のいない農家の田畑を借り受け、夫婦で農業に従事しながら、地域づくり活動にも参加し地域を元気づけている。</p> <p>○舞氏：10年前に制度がスタートした「地域おこし協力隊」発足時の経験者で“山形県初”の定住農業者。協力隊任期終了後、結婚し、後継ぎ不在の農家の農地を引き受け、稲作農業等に従事しながら、様々な地域活動にも積極的に参加し、中山間地域を元気にしている。</p>
活動概要	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・（舞氏）群馬県から村山市樽石地区に移住・定住し、後継者不在の農家の農地を借り受け、農業に従事。</li> <li>・夫婦二人三脚で子育てしながら水稻やスイカの栽培に励んでいる。</li> <li>・樽石文化祭実行委員、戸沢わくわく太陽塾（放課後子ども教室）、高齢者声掛け・パトロールなど、地域活動にも積極的に参加。</li> <li>・農業後継者不足の過疎地域に移住し、営農するだけでなく、地域活動にも積極的に参加することで、地域とのつながりを密にし、次代の担い手として地域に活力を与えている。</li> </ul>	